

令和4年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

### ①豊かな心をはぐむ教育の推進

<h4>1 一人一人の児童生徒の尊重</h4> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。</p>	<h4>2 友達への思いやり</h4> <p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<h4>3 道徳・心の教育の充実</h4> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)</p>
--	---	--

一人一人の児童の尊重については、保護者の「そう思う」の割合は30%と昨年と比較して変わりなく低く、保護者・児童ともに「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」の割合が10%以上となっている。児童との対話を通して児童理解を深め、個に応じた指導の充実につなげてきたい。友達への思いやりについては、保護者・児童・教職員すべてにおいて、思いやりの心が育っていると感じている割合が高い。しかし、保護者の10%近くは「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」と回答している。授業や学校生活の中で、相手を思う気持ちや行動を認めることを継続したり、学級通信等で取組の紹介をしたりすることで、家庭と連携しながら思いやりの心の育成に努めたい。道徳・心の教育の充実については、保護者の回答の傾向はどちらかといえば肯定的である。しかし、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」という意見が20%近くあり、学校での取組の様子が見えない、コロナ化で地域との交流ができなかったことが一因だと考えられる。日頃から、通信等で取組を発信したり、心がやけ月間や親子道徳の日の充実させたりなど、更なる工夫をしていきたい。

### ②確かな学力を育む教育の推進

<h4>4 意欲的な学習態度</h4> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<h4>5 授業力向上</h4> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<h4>6 タブレット活用</h4> <p>子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。</p>
---	--	--

意欲的な学習態度について、教職員では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が100%であるのに対し、保護者・児童ではおよそ1割が「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答している。授業をしている側は意欲的と感じているも、児童自身はそう思っていないか、保護者にその姿が伝わっていないか、と考えられる。児童の主体性を意識した授業づくりに努め、家庭学習の啓発を通して意欲的に学ぶ児童の姿を伝えられるよう努めたい。授業力向上について、教職員では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が100%であるのに対し、保護者の5%、児童の8%が「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答している。児童が「わかる・できる」という実感を伴って理解できるように、校内研修でも取り組んでいるような振り返りや学習課程の工夫が不可欠である。毎日の授業がどのように行われているか、児童の姿から保護者へ伝えるように日々の授業と啓発の仕方を振り返っていく必要があると考える。タブレット活用について、教職員では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が100%であるのに対し、保護者の6%、児童の5%が「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答している。タブレットの活用については学級差や児童での個人差があることが否めない。タブレットを使うことが目的化せずに、タブレットを活用して学ぶことができるよう、職員間で活用法を共有したり、児童のタブレットの使い方について共通認識をもって指導したりする必要がある。

### ③健やかな体を育む教育の推進

#### 7 健康づくり

子どもは、好き嫌いをなく食事をして適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。

「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」と回答した児童、教職員の割合が20%を超えている。食事の好き嫌いと睡眠に関しては、子どもたちの状況と対応策を各種お便り等で積極的に発信し、家庭との連携を深めていきたい。また、学校保健委員会では「睡眠」をテーマに取り組んでいるため、発達段階に応じた指導や取組を継続して行うようとする。運動に関しては、「楽しい体育」の充実により、運動の日常化に努めていきたい。

### ①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

#### 8 児童生徒理解

先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていただいていると思いますか。

教職員では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が100%であるのに対し、児童の10%、保護者の7%が「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答している。子どもたちの良さを見つける活動を人権担当と連携したり、学びタイム等で実践したりする必要がある。また、学年・学級通信等を活用し、実践したことを保護者に伝えることも重要だと考える。

### ①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

#### 9 いじめや問題への対応

学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。

教職員では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が100%であるのに対し、児童の6%、保護者の11%が「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答している。かわかみっこアンケートで早期発見・早期解決に努める。また、事実があった際には、生徒指導主任・管理職と連携しながら慎重かつ迅速に対応していきたい。保護者連絡も密に行い、複数で対応していくようにしたい。

### ②特別支援教育の推進

#### 10 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が教職員が100%、保護者が89%だった。昨年度よりも教職員は増え、保護者は同じ割合だった。校内支援委員会を中心に日頃から支援が必要な児童について情報交換をし、学級支援員の先生の記録回覧を始めたこと等が結果につながっていると考えられる。課題としては保護者周知が挙げられ、今年度はおたより発行による情報提供を始めたが内容改善や継続、他機関等との連携をさらに考えていきたい。

### ②特別支援教育の推進

#### 11 共生社会を担う人材の育成

「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。

児童の95%、教職員は100%が、「交流及び共同学習」を肯定的に捉えていた。しかし、教職員は「そう思う」よりも「どちらかといえばそう思う」の割合が高くなっており、交流及び共同学習が更に相互理解の促進につながるよう、内容や進め方をしっかりと検討していきたい。また、保護者も肯定的評価が88%だが、そのうち60%は「どちらかといえばそう思う」となっており、交流の様子や成果がはっきりと分かりにくい面があると思われる。情報発信する機会をより多くつくってきたい。

**①子どもたちの身近な安全対策の充実**      **②最適な学習環境の整備**

**12 安全と事故防止**

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

対象者	「そう思う」	「どちらかといえばそう思う」	「そう思わない」	「どちらかといえばそう思わない」
保護者	80%	10%	10%	0%
児童	70%	20%	10%	0%
教職員	60%	30%	10%	0%

教職員では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が100%であった。昨年度に比べ保護者の割合も増えていた反面、児童の10%が「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答している。指導の事実を通信や懇談会等で保護者にも知らせることで家庭や地域との連携を深めていくことができてきた。今後も全職員が共通理解の元に児童への指導を繰り返すこと、安全面に対する意識を向上させていきたい。

**13 施設・設備の安全管理**

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

対象者	「そう思う」	「どちらかといえばそう思う」	「そう思わない」	「どちらかといえばそう思わない」
保護者	80%	10%	10%	0%
児童	70%	20%	10%	0%
教職員	60%	30%	10%	0%

全体の9割が肯定的な回答が多い中、児童の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が昨年より増えており、保護者は同じ割合だった。学校主事や事務との相談により迅速な対応に努めさらに安全な施設・設備にしていきたいために、毎月、確実な安全点検を推進していきたい。

**③家庭・地域社会との連携強化**

**14 教育方針・目標の理解**

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。

対象者	「そう思う」	「どちらかといえばそう思う」	「そう思わない」	「どちらかといえばそう思わない」
保護者	80%	10%	10%	0%
教職員	70%	20%	10%	0%

児童、教職員、学校評議員の回答は、9割以上が肯定的な意見であった。保護者の回答も肯定的な意見が9割に近い回答であった。今年度は、安心メールやホームページ等でのお知らせに加えて、学校だよりやどろんぐりんピックなども掲載した。今後も学校からの情報発信として、継続的なホームページの更新、安心メールを効果的に活用していきたい。家庭・地域との連携では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した保護者が約8割強、教職員は10割であった。コロナの影響が続いているが、少しずつ交流する機会が持てるようになってきている。学びたい学習会を実施したり、各学年での校外学習ができるようになってきたことも大きい。今後も、可能な限り地域の方との交流方法を模索し、開かれた学校づくりの推進に努めていきたい。

**15 家庭や地域との連携協力**

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

対象者	「そう思う」	「どちらかといえばそう思う」	「そう思わない」	「どちらかといえばそう思わない」
保護者	80%	10%	10%	0%
児童	70%	20%	10%	0%
教職員	60%	30%	10%	0%

**0**

**16 本校の教育**

子どもは、きちんとあいさつができていますか。

対象者	「そう思う」	「どちらかといえばそう思う」	「そう思わない」	「どちらかといえばそう思わない」
保護者	75%	10%	10%	5%
児童	70%	20%	10%	0%
教職員	60%	30%	10%	0%

あいさつについて、教職員では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が75%であるのに対し、児童の10%、保護者の10%が「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答している。幼小中連携でも挨拶について共通実践をしている。あいさつ名人の取組を続け、自分から進んで挨拶ができるよう努めていきたい。きまりやマナーについて、教職員では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が50%であるのに対し、児童の4%、保護者の6%が「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答している。川上っ子のきまりを教室に掲示するだけでなく、全校朝会で呼びかけたり、生徒指導部会で話し合ったりしながら、共通実践に努めたい。外遊びやスポーツについて、保護者の85%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答し、昨年の8割未満から改善がみられる。一方で、教職員、児童ともに昨年よりも「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の割合が少し増えている。コロナ禍における外遊びの制限が解除され、外遊びやスポーツができる状況にはなったものの、進んで取り組まない児童もいることが考えられる。全校遊びや体育授業の充実などで改善を図ってきたい。

**17 本校の教育**

子どもは、きまりやマナーを守っていると思いますか。

対象者	「そう思う」	「どちらかといえばそう思う」	「そう思わない」	「どちらかといえばそう思わない」
保護者	75%	10%	10%	5%
児童	70%	20%	10%	0%
教職員	60%	30%	10%	0%

**18 本校の教育**

子どもは、すすんで外遊びやスポーツをしていると思いますか。

対象者	「そう思う」	「どちらかといえばそう思う」	「そう思わない」	「どちらかといえばそう思わない」
保護者	75%	10%	10%	5%
児童	70%	20%	10%	0%
教職員	60%	30%	10%	0%

**来年度の具体的な取り組みについて**

- 教育目標・方針については、全職員連携の上、児童が自ら学校の主役である意識付けや活動の支援などを行い、児童の主体的な活動の活性化を引き続き図っていく。また、その取組や成果や課題について、さらに分かりやすく、学校ホームページ、安心メール、学年・学級便り、PTA新聞、諸団体等あらゆる機会を通して情報発信に努めていく。
- 全職員が児童の様子を気にか、日常観察や川上っ子アンケートで心の変化や悩みをつかむようにする。また、校内委員会や生活朝会の場を定期的・随時的に設け、特別な支援を要する児童の様子やいじめ等の諸問題について職員で情報共有し、素早く対応する。そして、児童自身や人間関係等の保護者の相談を多様な職員が常に受け入れられる体制を整えておく。
- 全国学習状況調査、熊本市学力検査の結果を分析し、児童が「学びとる」授業への改善を意識して、ICT機器の効果的な活用や教材開発に努めていく。また、タブレットを利用した個別学習と学校生活になじめない子どもの学力保障等、個に応じた学習のさらなる徹底を図っていく。
- 国・県・市の動向に応じて、新型コロナウイルス感染症防止のために、日常的にマスクの正しい着用・換気・手指消毒・活動内容の点検等を行いつつ、学校生活の有り方を考慮していく。また、PTA執行部や各家庭と連携しながら、学校保健委員会での話し合いをもとに、食事や睡眠等について効果的な指導や取組を継続し、児童の健康の維持増進を図っていく。
- 校区内を基幹道路が縦横に走り新設道路もできたため交通量が多く、また不審者事案も多いため、地域安全協議会の諸団体との連携を密に行うとともに、安全教育の徹底を継続していく。
- 挨拶運動やきまり・マナーについて、生徒指導部を中心に家庭・地域と連携を図りながら、学校全体の規範意識を高めていく。

**学校関係者評価**

- 以前より学校がきれいになった。職員の自発的な行動ができていく現れである。
- 子どもたちが大きな声で挨拶をしている。
- 久々に参観ができ、子どもたちが落ち着いて授業を受けている姿を見て安心できた。タブレットを使いこなした学習が進んでいる。
- 学校評議員制度をしっかりと機能させることは地域とのつながりを深めて、連携・協力体制を築き、開かれた学校やより良い学校経営にとって重要である。学校評議員制度を形骸化・形式化せず、十分に活用してもらいたい。
- 児童・保護者の評価と職員の評価の違いが見られる項目があるので、学校側からの見た実態や指導の様子を伝えていくことも必要ではないか。
- 新型コロナウイルス感染症のまん延により、行事等を通じた学校と地域とのつながりができない状況だったので、そのつながりを戻していきたい。
- 地域が学校の様子を知る機会が減ってきたので、ホームページの更新間隔を短くしたり、学校の情報をSNSやメール等で積極的に発信したりしてはどうか。